

# コンビニから見る韓国文化

原田 有紀子

## はじめに

私は、今回のスタディーツアー（8月17日～20日）で韓国のコンビニエンスストア（以下コンビニ）から韓国文化を発見しようと考えました。私はコンビニ（Seven Eleven）でアルバイトをしているので、その経験から韓国のコンビニにと日本のコンビニの違いを探しながら韓国の文化を見つめることができないかと思いました。私が4日間でコンビニを利用した回数は少なかったですが、“Seven Eleven”と韓国のコンビニ“GS25”を利用しました。また“Family mart”も見かけたのですが店外を見ることしかできませんでした。

## <店外の様子>



韓国のセブンイレブンの店外の様子です。①、②、④はミョンドンのセブンイレブンです。日本のコンビニは雑誌を並べて外から見えるようにしてありますが、韓国のコンビニは写真のようにポスターなどの貼紙がしてありました。②の写真のように、ミョンドンのセブンイレブンは韓国の海苔を一面に陳列し外から見えるようにしてありました。ここは日本人の観光客も多いので、お土産として好まれる韓国海苔を陳列することで、お客を呼び込もうという戦略をとっているの

だろうと思いました。また日本のコンビニは外にゴミ箱や灰皿が設置してありますが、韓国では見かけませんでした。その代わり店内にゴミ箱が設置してありました。韓国は道路に捨ててあるゴミが日本よりも多いので、コンビニの前にゴミ箱を設置すべきだと思いました。③の写真もセブンイレブンですが、普通のセブンイレブンとは大きく違う点が2つ見られます。このセブンイレブンは屋根が瓦になっている点です。このセブンイレブンは民俗村という場所にあります。民俗村は昔の韓国の様子を残してある場所です。その雰囲気を壊さないように周りの様子に合わせて作られたのだと考えることができます。日本でも京都のセブンイレブンは京都の雰囲気、景観に合わせて建てられたものがあります。そのように工夫する点は同じだと思いました。もう一つは店の前にテーブルと椅子が設置してある点です。日本の感覚からすると珍しく、韓国のコンビニの特色だと言えます。山口で見られる多くのコンビニは駐車場が広く、食べ物を買ってそのまま車内で食べるという人も多いですが、韓国では外にテーブルと椅子が設置してあるので、話をしながら食べている人々をみかけました。コンビニは便利さを求める場所という点ではその利にかなっています。

#### <店内の様子>



次はセブンイレブンの店内の様子です。⑤の写真はインスタントコーヒーと雑誌です。⑤のすぐそばに⑥のカウンターが設置してありました。店内ですぐに飲むことができるようになっています。韓国のコンビニは店内にこのようなスペースが設けてある場合が多いです。韓国のコンビニに入ってから最初に感じたことは店内が狭いということでした。他のコンビニもあまり広くありませんでした。日本のように店で揚げて作る「から揚げ」や、「フライドポテト」は見かけませんでした。その代わりにレジの周りにもインスタントコーヒーを作るための機械が設置してありました。韓国人はインスタントコーヒーやカップラーメンなどをその場で作って食べることをよくしているのか、どのような人がそのサービスを利用しているのかを調べることはできませんでしたが、コンビニの店内を見ることで韓国人々にとって、買ってその場ですぐに食べる、飲むという行為が当たり前のように行われているのではないかと考えました。



お菓子やカップラーメンは品揃えが豊富でした。(写真⑧、⑨、⑪) 陳列の仕方は日本のようにきれいに並べてあり、手前に名前と値段のラベルが貼ってありました。⑧の一番上の段にあるお菓子は日本の「かっぱえびせん」の類似品です。山積みになっていますが、売れるものは幅を広く取り、色取りも考え並べてあるので効果的に陳列されている点は日本と同じでした。お菓子の棚は日本のように店内の中央付近の棚にありました。⑩はおにぎりやサンドイッチの棚です。⑪の手前はパンの棚です。日本に比べると韓国のコンビニはパンやおにぎりの品数、種類が少なかったのですが、それはどこのコンビニでも共通して言えることでした。日本のようなお弁当は見かけませんでした。日本のコンビニは昼食や夕食のためにお弁当などといった一回分の食事が取れるほどの品物がありますが、韓国のコンビニはちょっとした空腹を満たす程度の品物しかありませんでした。そのため、店内をゆっくりと見て品物を選ぶという光景は見られませんでした。今回は調べることができなかつたのですが、おにぎりやサンドイッチ、パンを買う人がどの年代人で、人数がどのくらいであるか、時間を追って調べることができたら良かったと思いました。日本と韓国のコンビニのレジの比較もしてみました。左が韓国のセブンイレブンのレジで、右が日本のセブンイレブンのレジの写真です。やはり客層の情報を得るために韓国のレジもお金を打つだけでなく品物を買ったお客さんの性別や年齢を押すボタンがありました。日本のセブンイレブンのレジのボタンは男性が薄い青色、女性は薄いピンクで色分けがしてありますが、韓国のレジは男女での色分けはしてありませんでした。

< 韓国のレジと日本のレジ (セブンイレブン) >



また、日本と韓国ではボタンの並びも異なっていました。日本は上から 12、19、29、49、50 となっていますが、韓国は年上のボタンが一番上にありました。コンビニを利用する人は若い人が比較的多いので、日本は若い年齢層のボタンを一番上にしたのではないだろうかと考えました。しかし韓国は年上のボタンが上にありました。これは年上の人を敬うという韓国文化に關係しているのではないだろうかと考えましたが、はっきりとしたことはわからないので、また調べてみたいと思いました。年齢の区分は日本では、0-12 歳、13-19 歳、20-29 歳、30-49 歳、50 歳以上です。韓国は 0-13 歳、14-19 歳、20-29 歳、30-49 歳、50 歳以上となっていて 20 代から上の年齢層の区分は同じですが、最初の二つの年齢層が 1 歳ずつずれています。最初の年齢層は小学生、その次が中・高校生という区分であることが考えられますが、韓国は年齢の数え方が違うので日本とずれているのではないかと考えました。韓国の年齢の数え方で言うと、日本と同じように小学生の年齢層と中・高校生の年齢層になっているので、やはりこの違いは年齢の数え方によるものだと思います。

私が韓国でコンビニを利用した時、朝の 8 時頃に行った時は、出勤途中の男性を見かけました。ラーメンを買って、お湯を入れカウンターに立って食べていました。もう一人の客は、サンドイッチとおにぎりを買ってすぐ出て行きました。コンビニは便利さを第一にしているのは日本も韓国も同じですが、人々の様子が違うと私は感じました。まずバイトをしている人のサービスが日本とは大きく異なります。まず店に入ると「いらっしゃいませ」と声をかけられ、物を買おうとレジに品物を持って行くとそのままバーコードを通して「〇〇ウォンです。」と言われ、お金を払いお釣りを貰いました。そこで私は、「ビニール袋をください」や、「ストローをください」と言いました。日本は言わずとも店員が自らお客にお箸やスプーン、ストロー、ビニール袋が必要か不必要かを尋ねますが韓国ではそうではない場合が多かったです。日本ではコンビニと言っても、お客として行くと、何か物を買いに来たとしても、立ち寄っただけだとしても当然サービスを受けるという立場になり、お客として店員からとても丁寧な扱いを受けますが韓国はそうではありません。自分が買いたいもの、求めているものをより早く購入することができればいいと

ということが見受けられます。そのため店員は店にお客がいるにも関わらず、写真⑦のように携帯電話でメールをしたり電話をしたりしている姿も見られます。

<コンビニでバイトをする人、コンビニを利用する韓国の人々>



しかしそれに対し韓国の人々は何も気にしていない様子で店を足早に出て行きます。興味深いと思ったことは、韓国の店員さんはお金を払い終わり出て行くお客さんに「ありがとうございます。안녕히 가세요 (さようなら)」と言っていることでした。「さようなら」は去る人に対する挨拶で、日本のコンビニでは聞かない台詞だと思いましたが、韓国ではその挨拶が決まり文句の一種として定着しているのだと思いました。

⑤の写真を見るとわかりますが、雑誌が置いてある数が少ないです。このコンビニだけでなく他のコンビニでもそうでした。日本では雑誌がたくさん陳列してあるため、店内で立ち読みをしている人々をたくさん見ることができます。韓国の人々は店内に長く留まる人はおらず、先ほども書いたように自分の欲しいものを購入し終わるとすぐに出て行くので、雑誌が並べられていないのはそのせいではないかと思いました。韓国は「빨리 (早く)」という言葉をよく使い、人々の行動も慌しく感じますが、その韓国の風習がコンビニでも見ることができました。

同じセブンイレブンでもやはりその国の人々の生活に合わせて品物やサービス、人々の行動が異なるので、コンビニという空間からも文化を発見することができました。